

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 15日現在

機関番号： 24402
 研究種目： 基盤研究（C）
 研究期間： 2008～2011
 課題番号： 20530470
 研究課題名（和文） テレビ映像資料のアーカイブ構築とネットワーク化についての発展的研究
 研究課題名（英文） Archive Construction of TV Visual Data: a Progressive research on Network formation.
 研究代表者
 石田 佐恵子（ISHITA SAEKO）
 大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
 研究者番号： 70212884

研究成果の概要（和文）： 当研究は、体系的で網羅的な映像資料アーカイブの成立条件を明らかにすることを目的とする。その成立条件とは、技術的要件と制度的要件とに大別される。当研究では、その手法のフォーマット化を探求した。

さらに、期間と分野を限定し、映像資料の網羅的データ収集を試みた。収集データを分析資料として活用し、より効率的な映像アーカイブのあり方を模索した。公的映像アーカイブ施設の設置を目標とした研究者・研究機関ネットワークを拡大し、望ましい映像アーカイブスの提言を目指した。

研究成果の概要（英文）： This research is aimed at clarifying the formation condition for the systematic, cyclopedic visual data archive. The condition is divided roughly into the technical matter and the institutional matter. In this research, we searched a format of the taxonomy. Furthermore, we tried to collect the cyclopedic data of the visual material. We utilized the collected visual data as analysis references and groped for the more effective, ideal method of visual data archive. In the end, we extended the network among researchers and research organizations which aimed for the establishment of the public visual archives and aimed at the proposal of the design of desirable archives.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野： 社会学

科研費の分科・細目： 社会学（含む文化人類学・社会福祉）

キーワード： 映像社会学、テレビ文化研究、アーカイブ構築

1. 研究開始当初の背景

当研究は、平成17-19年度文部科学省科学研究費補助金（題目「テレビ映像資料のアーカイブ構築と分析方法の探究」）の継続研究として企画された。

学会における最新の潮流では、テレビ研究にはテレビ番組分析が不可欠であるとの認識が広く共有され、テレビ研究の意義が再評価されつつある。また、テレビの社会的・政治的影響力があらためて論議され、番組だけではなく、テレビCM、映画、ラジオ番組等のオーディエンスの成立と変化をとらえる歴史的研究も活発化してきている。

しかしながら、日本においては、メディア研究に不可欠な分析対象、テレビ番組・テレビCM・映画作品・ラジオ番組など、資料そのものに研究者がアプローチすることが極めて困難な状態が長く続いてきた。近年、諸国において、テレビ番組や映像資料を公的に保存・管理し公開する施設整備が飛躍的に進んでいるのに対し、日本における公的映像アーカイブはいまだに十分に整備されておらず、その方策も定まっていない。日本におけるメディア文化研究が、諸外国に肩を並べる水準を確保するためには、体系的に収集・蓄積され系統的に分類・整理された、検索と広範な利用が可能な映像アーカイブの整備がなによりも急務なのである。

また、研究の視点からだけではなく、メディア環境の拡大と圧倒的な優越が進展する状況下では、テレビ番組・テレビCM・映画、ラジオ番組などは、人びとが経験した出来事の記録であり、人びとの記憶を形成し、想起させる文化資源ととらえられる。その意味で、映像アーカイブの構築は文化資源形成という重要な性格も持っている。

石田佐恵子は、先行の研究課題において、映像データ、特にテレビ映像分析の手法にかかわる研究を展開し一定の成果をあげた。その過程において、分析対象となるテレビ映像資料を体系的に収集することを試みた。収集された映像資料は、日本のテレビ番組、イギリス・アメリカ・韓国・インドネシア各国のテレビ番組資料、約千件である。それらは、映像分析の手法について比較文化的に探求するという目的のためには必要十分な数量であった。しかしながら、個人で収集可能な映像素材数には限界があり、ある程度分類上の体系性を確保されたものの、膨大な映像資料を徹底的かつ網羅的に収集するには至らなかった。

そこで、継続する当研究では、より体系的で網羅的な映像アーカイブ構築を目標として、それに必要な諸条件の検討、基礎的研究を継続的に行った。その上で、期間と分野を限定して、映像資料の網羅的なデータ収集を試みた。収集された映像データは、随時分析資料としても活用しつつ、より効率的で研究・教育目的に特化した映像アーカイブのあり方を模索する。最終的には、公的映像アーカイブ施設の設置を目標とした研究者・研究機関ネットワークを拡大し、望ましい映像アーカイブのデザインの提言を目指すものである。

2. 研究の目的

当研究は、映像資料アーカイブの成立条件を明らかにすることが目的である。その成立条件とは、保存と修復（i）・上映と公開（iv）に関する技術的要件と、放送法・著作権法といった制度的要件とに大別される。テレビ映像資料アーカイブにとってより重要なのは、分類と整理（ii）・付随資料の文書化（iii）という根気の要る作業であり、当研究では、その手法のフォーマット化をも同時に探求してきた。

3. 研究の方法

当研究の企画は、次のような4つのステップから立案された。それは、Ⅰ. 映像アーカイブ構築の前提条件をととのえるための作業（初年度）、Ⅱ. 地上波デジタル・テレビ放送に向けてのデータ収集デザインの変更作業（2年度）、Ⅲ. 収集した資料の分類とアーカイブ構築（2年度～最終年度）、Ⅳ. 映像資料アーカイブ公開とネットワーク化の推進（3年度～最終年度）である。収集されたテレビ映像資料は、随時分析資料としても活用し、より効率的な映像資料アーカイブのあり方の検討へとフィードバックする。最終的には、公的映像アーカイブ施設の設置を目標とした研究者・研究機関ネットワークを拡大し、研究成果を公開することによって、望ましい公的映像アーカイブのデザインの提言を行う。

4. 研究成果

以上のような研究目的に沿って、初年度は次のような成果を上げた。①映像アーカイブ構築に関する基礎的文献資料の収集、②各地域・各国の映像アーカイブについての資料収集と調査。日本国内・海外の各地域の映像資料、テレビ番組資料の収集状況を調査し、関連する研究者を招いて数次の研究会を実施した。③映像アーカイブ構築に関する諸問題の検討。「映像資料」をどのように収集・保存していくかという技術問題を検討した論文を発表した。制度的観点からは、映像資料アーカイブをどのように公開していくか、教育的利用・研究利用・映像製作における再利用・再加工、一般市民への研究成果の還元の各レベルにおける諸問題の検討を行い、関連するシンポジウムで報告を行った。④継続的なデータ収集と分類作業。平成19年度までの研究助成金で得られた機材を用いて、試験的な資料収集を行った。データベースとしての汎用性の高さ、効率的な資料分類方法について検討を重ねた。

継続2年目は、初年度の活動で得られた資料を対象に、そのデザインについてさらに検討を加えた。平成23年度に予定されている、地上波テレビ放送の完全デジタル化に向けて、従来設置されてきた録画機器、映像保存機器、資料分析ソフトなどの再検討を行った。その上で、導入すべき設備機器の選定を行い、段階的に研究用設備を導入し、デジタル放送時代の映像資料収集についての基本的フォーマットを模索した。

本作業は、収集作業の設計、アーカイブ構築の実施、分析研究への応用、収集作業の再設計、資料の本格的な収集、データのフォーマット化、図示化、資料構成などの手順ですすめられた。また、各地域・各国の映像アーカイブについての資料収集と調査を継続して実施した。さらに、日本国内・海外の各地域の映像資料、ポピュラー文化資料の収集状況を調査し、関連する研究者を招いて数次の研究会を実施した。さらに、研究会の詳細をHPにて発信した。

継続3年目は、間近に迫った地上波テレビ放送の完全デジタル化に向けて、録画機器、映像保存機器、資料分析ソフトなどを導入し、デジタル放送に対応した基本的機器の活用を試験的に始め、その機器を用いた資料収集と調査を実施した。さらに、平成21年度から継続して、各地域の映像資料、ポピュラー文化資料収集を行っている関連分野研究者を招いて数次の研究会を実施し、研究会の詳細をHPにて発信するとともに、活動報告書の刊行を行った。現在は、それらの成果を論文の形にまとめ、編著を編纂中である。

最終年度は、①データ収集デザインの確定：地上波テレビ放送の完全デジタル化に向けて、従来設置されてきた録画機器、映像保存機器、資料分析ソフトなどを導入・選定を行い、長期的展望に立った研究用設備を導入し、映像資料収集についての基本的フォーマットを確定した。また、②映像アーカイブのネットワーク推進：これまでの作業を総合的に完成させたのちに、著作権問題を十分に考慮した上で専門研究者・教育利用・映像制作者との共有の各レベルについて、アーカイブ公開の範囲と可能性を吟味し、最終的なアーカイブの完成を目指した。

■収集した資料のデータベース化

映像資料を資料として利用可能にするための分類化・キーワード作成のために、研究補助者を雇用して分類作業を実施した。

具体的には、作業プロセスのフォーマット化、収集された資料のデータ入力、再配置、図示化、資料構成などの手順を進めた。歴史的資料の収集や比較文化的視点から、関連する資料も同時に収集した。国内外のテレビ番組サンプルの資料として作成されたデータベースは、主に8mmテープに録画された1990年代から2000年代の日本のテレビ番組（テープ140本分）、DVDとして作成されたテレビ番組録画資料、2006年以降に、テレビ映像資料アーカイブ・プロジェクトによって計画的に保存されたデジタルデータである。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

- ① 石田佐恵子, 2012, 「ビジュアルデータ・アーカイブズを用いた二次分析の可能性 ～テレビ番組・CMアーカイブを中心に～」, 『社会と調査 特集：データ・アーカイブと二次分析の最前線』, 査読有, 第8号, 社会調査協会.
- ② 石田佐恵子・岩谷洋史, 2012, 「テレビ映像資料の収集と保存に関する実践的研究 —311テレビアーカイブ・プロジェクトの事例から—」, 『人文研究』63, 査読有, 大阪市立大学文学研究科紀要, 109-132頁.
- ③ 石田佐恵子, 2009, 「個人映像コレクションの公的アーカイブ化の可能性」 『マス・コミュニケーション研究』日本マス・コミュニケーション学会, 査読有, 第75号 (60 (1)).
- ④ 石田佐恵子, 2009, 「ムービング・イメージと社会 映像社会学の新しい研究課題をめぐって」 『社会学評論』日本社会学会, 査読有, 第237号 (60 (1)).
- ⑤ 石田佐恵子・岩谷洋史, 2009, 「映像資料の収集と保存をめぐる問題 —デジタル化時代の映像社会学に向けての試論」, 『都市文化研究』12, 査読有, 都市文化研究センター, 84-94.
- ⑥ 石田佐恵子, 2009, 「映像アーカイブズを用いたテレビ文化研究の可能性」 『テレビCM研究』第2巻2号, 査読無, 京都精華大学表現研究機構, 27-35.
- ⑦ 石田佐恵子, 2008, 「データベースのデザインをめぐって」 『テレビCM研究』第1巻, 査読無, 京都精華大学表現研究機構, 122-143.

〔学会発表〕（計9件）

- ① 石田佐恵子, 2011.9.2, 「Theoretical Keywords for Transnational Popular Cultures Glocalization & Representation of East Asian Women's Bodies (発表は日本語、韓国語訳付)」 於Asian Pop Culture Forum: New Korean Wave, Asia and Beyond (韓国、ソウル).
- ② 石田佐恵子 (討論者), 2011.5.19, 「アーカイブズの学術利用がひらく地平/第2部 討論: NHKアーカイブスが切りひらく新しい『公共』」 於NHK放送文化研究所シンポジウム (千代田放送会館).
- ③ 石田佐恵子 (討論者), 2010.10.30, 「WS『有名性と文化人: 現代メディアにおける人称性の消え難さ』」 於日本マス・コミュニケーション学会秋期大会 (東京国際大学).
- ④ 石田佐恵子, 2010.10.9, 「第4セッション [日韓関係の生活政治] 韓流ブームからジャンルとしての韓流へ」 於韓国社会史学会 (韓国、ソウル大学).

- ⑤ 石田佐恵子, 2010. 10. 7, 「初期テレビCMデータベースを読み解く」於ソウル大学日本研究所定例セミナー(韓国、ソウル)。
- ⑥ 石田佐恵子, 2010. 9. 21, 「I N A訪問記」於NHKアーカイブス トライアル研究実行委員会(NHKアーカイブス川口)。
- ⑦ 石田佐恵子, 2009. 7. 11, 「ポピュラー文化ミュージアムと記憶の社会学」, 持続可能な文化アーカイブ研究会, 大阪市立大学文化交流センター。
- ⑧ 石田佐恵子, 2009. 6. 13, 「生活革命と〈専業主婦〉オーディエンスの構築」京都精華大学テレビCM研究会, 京都国際マンガミュージアム。
- ⑨ 石田佐恵子, 2009. 1. 11, 映像アーカイブスを用いたテレビ文化研究の可能性, 京都精華大学シンポジウム「テレビ文化は残せるか」, キャンパスプラザ京都。

〔図書〕 (計7件)

- ① 石田佐恵子, 2012, 『テレビ映像資料のアーカイブ構築とネットワーク化についての発展的研究(成果報告書)』科学研究費補助金研究報告書, 全174頁。
- ② 石田佐恵子 (編集), 2011, 『持続可能な文化アーカイブ研究会 活動報告書』大阪市立大学, 全100頁。
- ③ 石田佐恵子 (分担執筆), 2010, 吉見俊哉・土屋礼子編『大衆文化とメディア』ミネルヴァ書房(第9章 221-249頁)。
- ④ 石田佐恵子 (分担執筆), 2010, 南後由和・加島卓編『文化人とは何か?』東京書籍(第6章 105-128頁)。
- ⑤ 石田佐恵子 (分担執筆), 2010, 高野光平・難波功士編『テレビ・コマーシャルの考古学』世界思想社(第6章 132-157頁、コラム 108-109頁)。
- ⑥ 石田佐恵子 (分担執筆), 2010, 宮内洋・好井裕明編『当事者をめぐる社会学』北大路書房(第8章 141-161頁)。
- ⑦ 石田佐恵子 (編集), 2010, 『記憶の社会学とミュージアム』大阪市立大学, 全119頁。

〔その他〕

ホームページ等

〔WEBページ〕

- ① 石田佐恵子 (監修・製作) エスノグラフィック映像コレクション, 大阪市立大学都市文化研究センター, <http://ucrc.lit.osaka-cu.ac.jp/movie/>
- ② 石田佐恵子 (監修・製作) 持続可能な文化アーカイブ研究会, 大阪市立大学都市文化研究センター, <http://ucrc.lit.osaka-cu.ac.jp/movie/samc/>
- ③ 石田佐恵子 (監修・製作) 万年社コレクション(大阪メディア文化史データベース), 大阪市立大学都市文化研究センター, <http://ucrc.lit.osaka-cu.ac.jp/mannensha/>

〔その他〕

- ① 石田佐恵子, 2010, 「1950-60年代の番組台本・生CM脚本を探して」『日本脚本アーカイブズ調査・研究報告書V号』, 8-11頁, 社団法人日本放送作家協会。
- ② 伊藤守編, 2009, 『よくわかるメディア・スタディーズ』(石田佐恵子 項目「アーカイブの公共性」他、3件分担執筆), ミネルヴァ書房, 全227頁。
- ③ 井上俊・伊藤公雄編, 2009, 『社会学ベシックス 第7巻〈ポピュラー文化〉』(石田佐恵子 項目「テレビ文化」 J・フィスク『テレビジョンカルチャー』(1987) 105-114頁分担執筆), 世界思想社, 全239頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石田 佐恵子 (ISHITA SAEKO)
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号: 70212884

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし